

# 江戸川大学で プロ野球の未来を考える

1月26日、江戸川大学でスポーツビジネス・シンポジウム「プロ野球の使命と役割」が行われた。パネリストはニューヨークヤンキースに移籍した田中将大選手、元日本プロ野球組織セ・リーグ統括兼運営部長大越英雄さん、スポーツジャーナリスト鷲田康さん、社会学部経営社会学科広岡勲先生の4人だ。(文:久保田孝典・三浦美由)



写真右…右から大越英雄さん、鷲田康さん、田中将大選手、広岡勲先生(撮影:君島孝規 協力:田中将大) 写真下…シンポジウムには多くの学生と報道関係者が参加した。



会場の映像ホールは、江戸川大学生や近隣の高校生、マスコミ各社の取材陣など約500名の来場者で熱気につまみまわされた。

「ニューヨークヤンキースに所属しているデレク・ショーンになる。それには信頼がない」といわれる。出来ないと、ここで記者席を指さし、「ああいった人たちがね。いやそんなことないですよ(笑)」と、笑顔を見せながら新聞記者達に触れ、会場の動力があります」

シンポジウムはファンサービスについて白熱した討論からはじまった。大越さんは、「パ・リーグが観客動員数を伸ばしている。たとえばロッテ。地域密着で地域のファンを大事にしたり、他業界から営業担当を招いている」と話した。

広岡先生は、日本とアメリカでは心理的にも物理的にも距離感の違いがある事を指摘する。

「ニューヨークヤンキースに所属しているデレク・ショーンになる。それには信頼がない」といわれる。出来ないと、ここで記者席を指さし、「ああいった人たちがね。いやそんなことないですよ(笑)」と、笑顔を見せながら新聞記者達に触れ、会場の動力があります」

「僕は5歳だよ。ジターは?」。ジター「オレ? 5歳(笑)みたいな。コミュニケーションを積極的に取りに行くんですね」

1月22日にニューヨークヤンキースへの移籍を決定した田中選手は、「楽天イーグルスはまだ創設して間もないから伝統的な物も少ない。なので、これからファンサービスを作っていく事が大事だと思っています」と語った。

また、負けた試合のコメントも心掛けているという。「メディアとのやり取りも人と人のコミュニケーションになる。それには信頼がない」といわれる。出来ないと、ここで記者席を指さし、「ああいった人たちがね。いやそんなことないですよ(笑)」と、笑顔を見せながら新聞記者達に触れ、会場の動力があります」

現代社会学科1年の三高恵祐君からの「日本とアメリカの契約の違いは?」というストレートな質問に対し田中選手は「スケールが違う」ときっぱり。

経営社会学科2年の江原悠佑君からの「社会に出る時に不安はなかったのか?」という質問に「自分の力ではなく、社会人としてのコミュニケーションの頃を思い出し、照れくさそうに話した。

最後に広岡先生はこう語った。「スポーツを通して社会を知り、学んでほしいです。スポーツビジネスには社会を変える原動力があります」

## 学生記者募集!

学生記者クラブは、学内外のイベントや、部活動、サークル活動などを取材します。

記事は「江戸川大学学生新聞」として発行するだけでなく、ウェブにもアップして世界に向けて発信していくプロジェクトです。

「Journalism」とは「発見や感動を相手に伝えること」。あなたもジャーナリストになろう!

N棟1階の受付にお気軽に声をかけてください。連絡先: TEL(04-7152-9908)E-mail(kouhou@edogawa-u.ac.jp) 企画総務課